

令和3年度 大阪府立堺支援学校 第2回学校運営協議会 議事録

|        |                  |
|--------|------------------|
| 校名     | 府立 堺支援学校         |
| (准)校長名 | 校長 西浦由夏、准校長 三宅康寛 |

|         |   |
|---------|---|
| 開催日時    | 令和3年11月24日(水)10時～11時55分   |
| 開催場所    | 本校 同窓会館   |
| 出席者(委員) | 橋本輝幸委員長、児玉和夫委員、井辻勝美委員、但馬秀樹委員、吉野由利委員、久保田征夫委員   |
| 出席者(学校) | 西浦由夏校長、三宅康寛准校長、長江京子教頭、橋本真希教頭、岩田博昭分校教頭、黒田健司事務部長、稲谷明美首席、黒川仰首席、岡本晃秀首席、林真広首席、毛利規子首席、永田英雄小学部主事、井上博貴中学部主事、上野克仁高等部主事、岡本裕衣高等部主事、西山三穂子教務部長 |
| 傍聴者     | 小学部保護者2名  |
| 協議資料    | ①令和3年度学校教育自己診断について[本校・分校]<br>②令和3年度いじめに関するアンケートについて[本校・分校]  |
| 備考      |   |

議題等(次第順)

- I 報告及び協議
- (1) 授業見学(視線入力装置を活用した授業)を受けて(説明・質疑応答)
  - (2) 令和3年度学校教育自己診断について(本校及び分校より報告・協議)
  - (3) 令和3年度いじめに関するアンケートについて(本校及び分校より報告・協議)

協議内容・承認事項等(意見の概要)

- I 報告
- (1) 上記の議題(1)について、説明をした。
  - (2) 上記の議題(2)(3)について、報告をした。
- II 協議
- (1) 授業見学(視線入力装置を活用した授業)を受けて(説明・質疑応答)
    - ・将来への広がりができる画期的な手段。継続的には予算措置が課題。作業療法士・理学療法士などの専門的な観点も同時に必要だと思う。→ 校内に常駐の作用療法士や理学療法士はいないが、自立活動の中で、個人の課題に取り組み、日常的に自立活動部のスタッフと連携を取りながら進めている。姿勢保持が課題。
    - ・視線入力装置を使うことで、子どもの力が伸びるだろう。対象の児童生徒が増えることを望む。
    - ・教員が子どもの課題を共有するべき。小中高の学部の連携をし、目標設定する会議が必要だと思う。
  - (2) 令和3年度学校教育自己診断について
 

[本校]

    - ・(意見)・地域と連携した学校運営が理想。設備や施設の管理の徹底や、デイ送迎時の事故が心配である。
      - ・設備・施設管理は年間を通して計画的に行っている。
      - ・デイのまとめ役の方と連携している。安全運転並びに注意喚起を促していく。
    - ・HP等で情報公開しているのはよいこと。設備拡充の計画性についての評価の低さが気になった。
      - ・大きな規模の工事の実施については教育庁が決定している。軽微な修理は学校判断で行っている。工事日程がきまれば職員会議等で周知している。
    - ・他校の児童生徒との交流については、現在どのようにしているか。
      - コロナ禍ということもあり難しい状態ではあるが、オンラインを活用するなどして再開をめざしている。

[分校]

    - ・(意見)・生徒と教職員の感じ方の違いが気になった。
      - コロナ禍で、なかなか会えない状況であるが、学園やスタッフへの連絡・連携を密にしていく。
  - (3) 令和3年度いじめに関するアンケートについて
 

[本校]

    - ・(感想)・児童生徒への気配りが大切。意思疎通が難しい生徒がいる中で、教員が先に感じる感性が必要。
    - ・日々、子どもとのつながりや触れあいをしっかり持って取り組んでほしい。
    - ・(意見)・児童生徒自身で連絡帳を書ける場合は、教員の記入欄が少なめになっている。子どもの状況がわかりにくいということもあった。→ 保護者と連携し、連絡帳や電話を通して、わかりやすいように努める。

(4) その他

    - ・委員のご意見をしっかり頂けるよう、学校運営協議会の時間設定を2時間枠にしてはどうか。→ 検討します。

次回の会議日程

|    |                       |
|----|-----------------------|
| 日時 | 令和4年2月22日(火)10～11時30分 |
| 会場 | 大阪府立堺支援学校 本校          |